

平成25年度「公民館を中心とした社会教育活性化支援プログラム」
採択団体事業成果発表会

公民館を核とした社会教育活性化事業

～持続発展教育（ESD）の普及・啓発を目指して～

テーマ5：その他地域の教育的資源を活用した地域課題解決支援

事業概要 愛知県教育委員会 **P.1**

大府市 『自然とともにみんなで学ぶESD』 **P.3**

地球環境や生物多様性について考える活動を公民館を拠点として展開します。野菜の栽培・収穫・調理や菜種油を作る活動を通して、自然と人との関わりや生きもの同士のつながりについて学びを深める活動を行ったり、ダンボールコンポストの活動を通してゴミ問題から循環型社会の仕組みを考え、身近な環境活動の普及・啓発を行ったりします。

豊田市 『豊田市交流館を核としたESDの普及啓発事業』 **P.9**

市内27交流館を地域活動の拠点とするために、事業企画を担う職員、及び活動の中核を担う市民などの様々な年齢層・主体に対して、ESDの考え方や実践例を学ぶ場を提供し、市民の自発的な活動を促します。豊田市・交流館指定

弥富市 『油～固ブラ～（あぶら～かたぶら～）「捨てる」から「活かす」へ』 **P.14**

家庭用食用油の再利用や資源の節約にスポットを当て、「弥富市女性の会」が継続して行っている活動を中心として、様々な分野で活躍する団体が集い、交流し、環境・資源・エネルギーの側面からESDの普及・啓発を目指します。多くの市民が集う「弥富市健康フェスタ」等のイベントにおいて各団体の連携・共働体制の強化を図ります。

愛知県教育委員会

公民館を核とした社会教育活性化事業

～ 持続発展教育 (ESD)の普及・啓発を目指して ～

愛知県では、2005年の愛知万博、2010年の COP10の開催により、県民の間に環境意識が生まれ、環境活動を中心とした ESD に関する取組が行われるようになってきています。今年開催される「ESD に関するユネスコ世界会議」を契機に、愛知県としては地域の ESD の意識をさらに高め、未来を支える人づくりを通じて、ESD に関する取組を発展・充実させることを目指しています。

「ESD」とは、**E**ducation for **S**ustainable **D**evelopment の略で、「持続可能な開発のための教育（持続発展教育）」と訳されます。今、世界には環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があります。ESD とは、これらの現代社会の課題を自ら捉え、身近なところから取り組む (Think Globally Act Locally) ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値化や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や行動です。

つまり、ESD は持続可能な社会づくりの担い手を育む教育であり、ESD の実施には、①人格の発達や、自立心、判断力、責任感などの人間性を育むこと ②他人、社会、自然環境との関係性を認識し、「関わり」「つながり」を尊重できる個人を育むことの2つの観点が重要です。そのため、環境、平和、人権等の ESD の対象となる様々な課題への取組をベースにしつつ、環境、経済、社会、文化の各側面から学術的かつ総合的に取り組むことが重要であるといわれています。

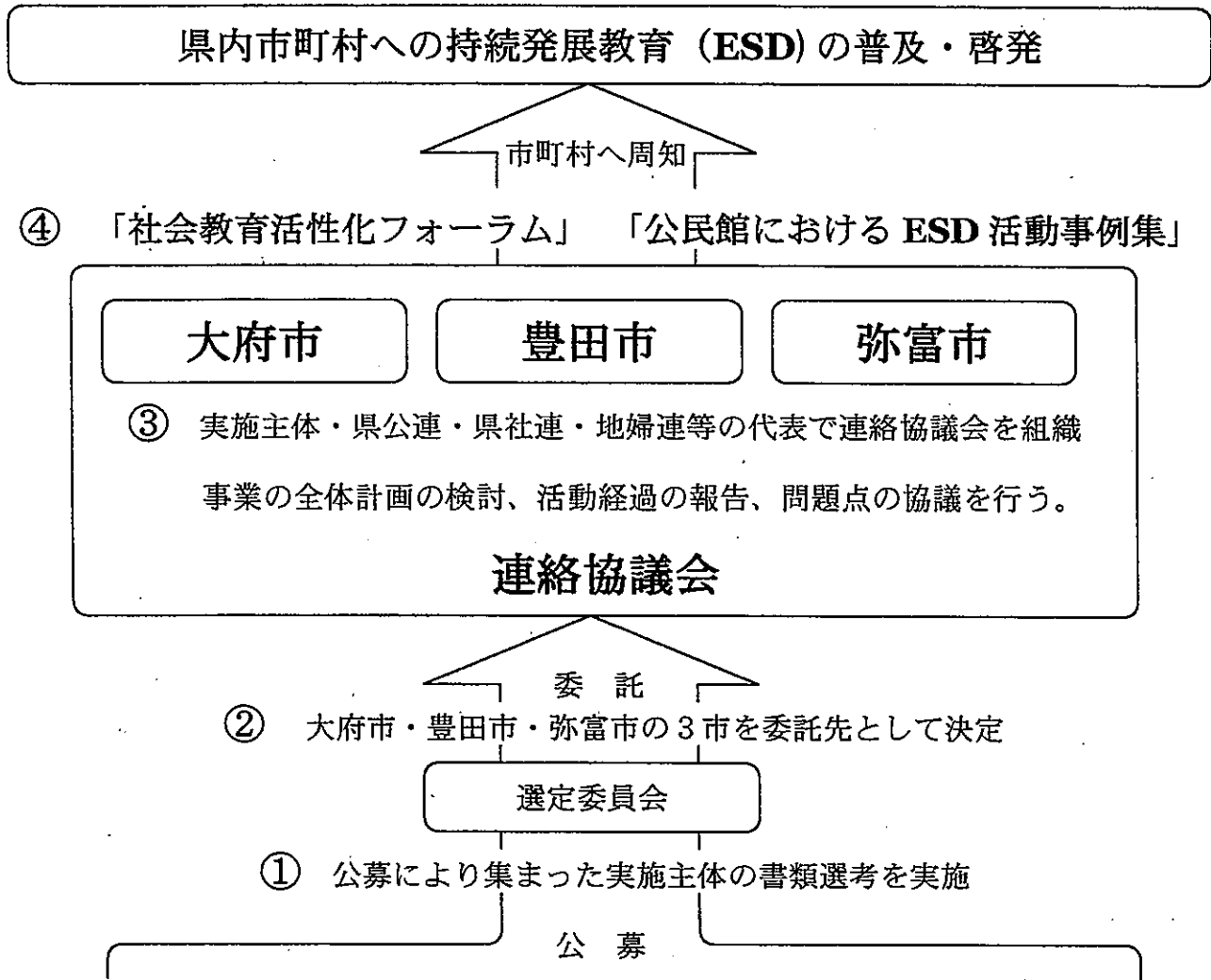
学校教育においては、ESD の拠点としての役割を果たすユネスコスクールの加盟校が拡大し、持続可能な社会づくりに向けた学校での ESD 活動は、県内各地・各校で充実してきています。愛知県教育委員会は、社会教育の中でより幅広く県民への ESD の普及・啓発を図っていくことを課題とし、文部科学省の「公民館を中心とした社会教育活性化支援プログラム」の委託によって、「公民館を核とした持続発展教育 (ESD) の普及・啓発」に取り組みました。県内に約400館設置され、社会教育行政の中核施設である公民館が核となり、行政・関係諸機関をはじめとして、様々な分野で活躍する団体が集い、交流し、持続可能な社会づくりについて学び合う機会を提供することによって、幅広い県民への ESD の普及・啓発を目指しました。

事業の実施概要としては、まず公募により集まった実施主体の書類選考を実施し、今年度は大府市・豊田市・弥富市の3市を委託先としました。

次に、実施主体・県公連・県社連・地婦連等の代表で連絡協議会を構成し、事業の全体計画の検討、活動経過の報告、問題点の協議を行う機関としました。

最後に、「社会教育活性化フォーラム」と「公民館における ESD 活動事例集」によって県内市町村に周知をし、ESD の普及・啓発を目指すこととしました。

平成25年度「公民館を核とした社会教育活性化事業」実施計画概要



今年度は、まずはこの継続的な「仕組み」を構築できたことが大きな成果として挙げられます。次年度以降は、連携した各団体の活動の中でも ESD の普及・啓発を目指した取組が行われるような働きかけを支援していきます。そして自主事業化を図ることができた主体やさらに多様な団体と連携・共働する仕組みも構築したいと考えています。また、地域の ESD の推進拠点と位置付けられるユネスコスクールが地域と協働して実践する活動との連携も模索し、学校教育と社会教育の融合の可能性について議論を重ねていきたいと考えています。これからのあいちのチャレンジに注目していただき。

平成26年2月

愛知県教育委員会

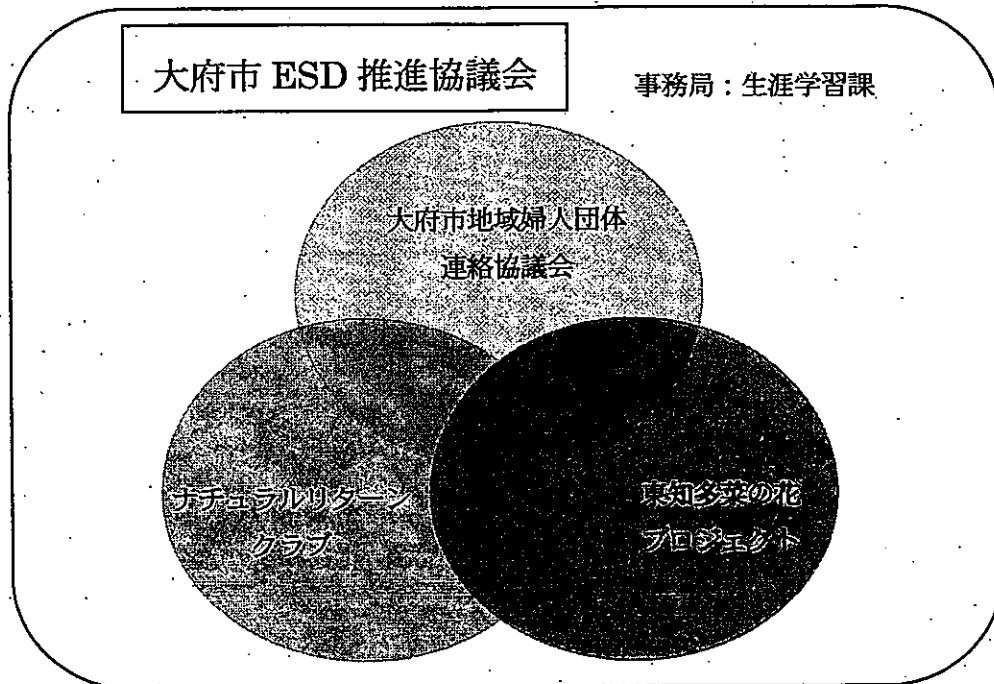
1 事業の題名

「自然とともに、みんなで学ぶESD」

2 組織（事業の実施体制）

「大府市ESD推進協議会」

構成：大府市地域婦人団体連絡協議会、ナチュラルリターンクラブ、東知多菜の花プロジェクト、大府市教育委員会生涯学習課



3 取組の趣旨・目的

大府市は、名古屋市のベッドタウンとして発展してきたが、まだ自然が広く残っており、また、住民はその自然を次世代に残していこうと取り組んでいる。その中で「大府市地域婦人団体連絡協議会」は、菜の花の栽培・収穫・調理や菜種油を作る活動を通して、自然と人との関わりや、生きもの同士のつながりについての学びを深めている。それは、机上の学びではなく、小学生と共に、実際に畑での収穫や搾油機での油搾りを行うことによって、次世代を担う小学生の学習にも貢献している。また、「ナチュラルリターンクラブ」は、ダンボールコンポストの活動を通して、ゴミ問題から循環型社会の仕組みを考え、身近にできる環境活動の普及・啓発を行っている。そして、「東知多菜の花プロジェクト」は、休耕地等を活用して、菜の花を始め、ひまわり等を栽培することで、環境美化意識を育み、年間を通じて花に彩られた街づくりを進めている。

このような「大府市地域婦人団体連絡協議会」等が長年取り組んできた自然と関わり合う活動を基盤として、地球環境や生物多様性について考え、ESDの普及・啓発につなげるため、公民館に「大府市ESD推進協議会」を設置し、活動の拠点とするとともに、活動内容を公民館利用団体等に周知し、事業への参画を促すことにより、地域コミュニティの活性化を目指している。

4 事業の具体的実施内容及び実施方法等

(1) 「大府市ESD推進協議会」の設置・開催

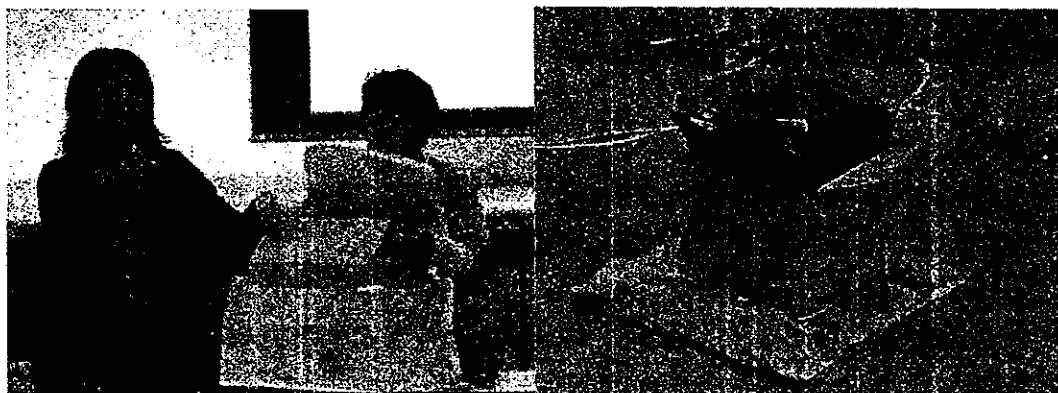
大府市ESD推進協議会を設置し、ESDに関する各種行事の計画の作成、ESD関係団体との連絡調整を実施した。

- ・ 7 / 1 大府市ESD推進協議会設置
- ・ 9 / 12 第1回協議会開催 会場：大府公民館
- ・ 10 / 11 第2回協議会開催 会場：横根公民館
- ・ 1 / 17 第3回協議会開催 会場：吉田公民館

(2) ダンボールコンポストの活動体験

ダンボールコンポストのスターターキットを配布し、循環型生ごみ処理の活動体験を実施した。

- ・ 12 / 5 スターターキット配布及びダンボールコンポストの使い方研修
会場：大府市役所 地下多目的ホール
講師：NPO 法人循環生活研究所 永田 由利子 氏
参加人数：53人



- ・ 1 / 28・29 フォローアップ研修
会場：1 / 28…大府公民館、横根公民館
1 / 29…長草公民館、吉田公民館
講師：ナチュラルリターンクラブ
参加人数：



(3) 専門的な知識を有する講師を招いて研修会の実施

生ごみから堆肥を作ること（コンポスト）を通して、身近にできる循環活動について学んでもらうことを目的に研修会を実施した。

「大府市ESD推進協議会研修会」

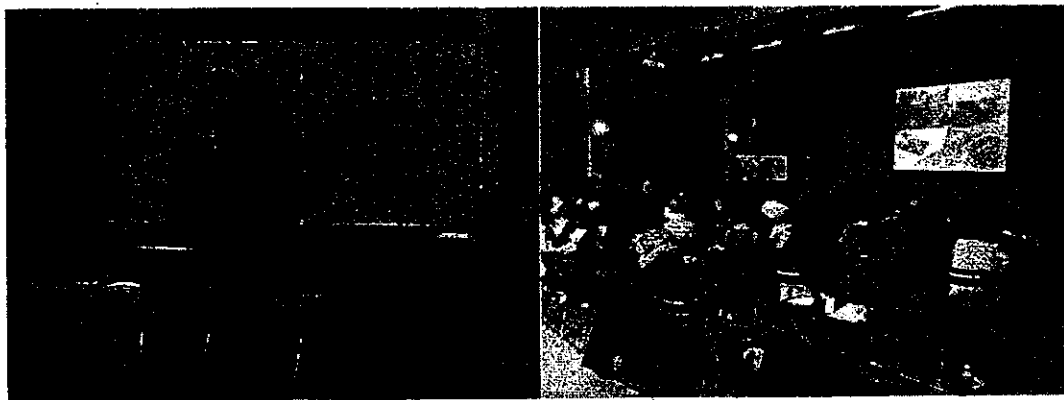
日時：12/5

会場：大府市役所 地下多目的ホール

講師：NPO 法人循環生活研究所理事長 平 由以子 氏

講演内容：「地域で小さな循環活動に参加しよう～身近にできる循環活動～」

参加人数：103人



(4) 先進地視察研修の実施

良質の有機肥料の利用の仕方等を学習することを目的に、先進地・武豊の作業を見学するとともに、代表者にアスパ作成のポイントを伺った。

日時：9/18

視察場所：クリーンシティクラブ（知多郡武豊町；武豊町中央公民館）

講師：クリーンシティクラブ代表 竹内 善司 氏

視察内容：アスパ作りの見学、アスパ作成ポイントの情報収集

参加人数：25人（地婦連各地区代表者）



(5) 小学生とともに菜の花循環活動の実施

大府市地域婦人団体連絡協議会において、小学4年生を対象に、学校教育の総合的な学習として、年間を通じ、菜の花の栽培から観賞、菜種油を搾取、活用を実施し、資源循環型社会の実現と環境意識の高揚を図った。

5月下旬 刈り取り作業・脱穀・選別

6月上旬 油絞り作業 ドーナツ作り体験

7月中旬 廃油石鹸作り・石鹸を使う

10月中旬 種まき作業

参加人数：小学生 約100人、地婦連 約50人



(6) 菜の花プロジェクトのつどいの実施

東知多菜の花プロジェクトにおいて、菜の花エコ活動等の循環型地域社会を目指す取組の紹介と地域団体との交流を目的に、菜の花プロジェクトのつどいを実施予定。

「菜の花つどい」

日時：2/25

会場：大府市役所 地下多目的ホール 久保田

内容：第1部 活動報告

第2部 学習会

講師1 コラビアセンター長 久保田好明 氏

「NPO法人の目指すもの」

講師2 株式会社 新（あらた） 参与 滝美千子

第3部 交流会

(7) 活動紹介パネルの作成・掲示

大府市地域婦人団体連絡協議会及びナチュラルリターンクラブが取り組んでいる、環境活動の紹介パネルを作成し、公民館まつりや愛フェス等で掲示することで、公民館の利用者・団体及び一般来場客に周知した。



5 事業の実施により得られることが見込まれる成果・効果

- ・人が集う公民館等の既成の事業をESDの視点から見つめ直し、再構築することによって、より多くの地域住民に対してESDの普及・啓発を図っていくことが期待される。また、様々な取組により地域のきずな、地域コミュニティの活性化につながるものと期待される。
- ・大府市ESD推進協議会において、多種多様な主体によるESDを、より多面的に捉えた取組を紹介し合い、情報交換をすることによって、お互いの主体の活動が刺激され、各主体の活動の質的な向上が期待できる。また、女性団体・NPOといった様々な分野で活躍する主体が集い、交流し、持続可能な社会づくりについて学び合うことによって、各主体の活動がつながり、連携し合い、組織の垣根を越えた連携・協働体制を築くことが期待される。
- ・公民館を活動拠点にすることで、これまで以上に公民館の活性化が進み、他団体との交流や協力しあえる体制が構築されることを期待する。

6 事業の評価

「大府市 ESD 推進協議会」での評価

- (1) 第 1 回：事業の方針や全体計画についての検討を行い、地域の課題や各団体が事業を行う上での課題を具体的に把握することで、計画に反映させた。
- (2) 第 2 回：事業の進捗状況を把握し、問題点について協議することによって、現状の評価と計画の一部修正を行った。
- (3) 第 3 回：今年度の事業について、成果と問題点を洗い出し、全体として総括することで、社会教育の活性化という当初目的の評価を行った。

7 まとめ

地域での環境活動を長年続けてきた団体と市が共同で大府市 ESD 推進協議会を公民館に設置し、その協議会を中心として、ESD の普及・啓発をすることで、団体同士の交流を深めると共に、市との協働事業を進めることができた。また、ESD の普及・啓発自体においても、講演のようなただ聞くだけのものではなく、ダンボールコンポストの活動体験や小学生と共に年間を通じての菜の花循環活動の実施等、身近な循環活動を実際に実施してもらうことにより、より実践的な普及・啓発につながった。特に小学生との菜の花循環活動は、子どもの頃から環境問題に対して関心を持つことができ、次代を担う子供たちに必要な「生きる力」につなげることができた。さらに、それぞれの団体の活動内容を公民館まつり等でパネルにおいて紹介することで、団体自身の PR とすることができ、今後のそれぞれの団体の発展が期待される。

今年度においては、準備期間が短く、また、実際に取り組んだ期間についても短かったため、実施できなかった事業もあるが、おおむね順調に事業を進めることができた。次年度においては、今年度の反省を踏まえ、それぞれの団体及び市との連携をさらに密にし、また、他の公民館利用団体とも連携することで、実施事業を充実し、大府市における ESD の普及・啓発を図っていきたい。さらに、普及・啓発からもう一歩進め、環境に対する体験活動や身近な活動を通して、主体的に環境について考え、行動を起こす人材の育成にも取り組んでいきたい。



平成25年度公民館を核とした社会教育活性化事業報告書【豊田市】

1 事業の題名

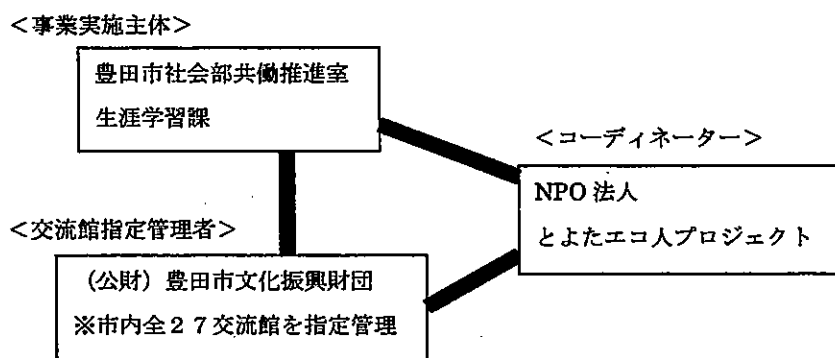
「豊田市交流館を核としたESDの普及啓発事業」

2 業務の委託期間

委託を受けた日から平成26年3月5日

3 実施事業の組織構成

本市では当該事業を、豊田市・交流館の指定管理者である（公財）豊田市文化振興財団・ESD的視点を取り入れた環境学習等の実績があるNPO法人とよたエコ人プロジェクトの三者による共働により実施した。



4 取組の趣旨・目的

本市においては、ESDの拠点であるユネスコスクールに豊田東高等学校が認定されているが、社会教育関係者にはESDの概念がほとんど知られていない。平成9年度にとよた市民活動センターにおいて、市民活動団体が主催してESDに関する勉強会が開催されたものの、実際の活動への展開に至らなかった。

豊田市社会部共働推進室生涯学習課では、市内27交流館（公民館）を地域の活動拠点とするための重点目標として、（1）地域における住民の育ちあい・学びあいの支援、（2）子どもを地域の担い手とするために必要な事業の推進を掲げている。

ESDの考え方を交流館事業に取り入れることは、これらの重点目標の達成に向けて、好影響を与えると考えられるが、現状ではESDの考え方を知る交流館職員が少なく、よって取組事例も希少である。

交流館活動の事業企画を担う職員及び活動の中核を担う市民などの様々な年齢層・主体に対して、ESDの考え方や実践例を学ぶ場を提供することによって、市民が自発的に地域社会において、ESD活動を展開するよう実施していく。

5 事業の具体的実施内容及び実施方法

行政職員及び交流館職員向けの研修及び市民を対象としたワークショップの計4回の事業を実施した。

(1) 行政職員向けESDを知る研修会(参加者22名)

□日時 平成25年8月9日(金) 13:30~16:30

□講師 環境省中部環境パートナーシップオフィス(EPO中部)
チーフプロデューサー 新海洋子氏

□ねらい

- ・平成26年に「ESDに関するユネスコ世界大会」が開催されることに先立ち、11月に本市においてイベントが開催されるため、開催地としてESDの普及を図る。
- ・市が取り組む事業を、さらに継続的で、未来に生かされる事業にするための方法をESDの考え方から学ぶ。

□内容 講義:ESDの歴史と必要性について

グループワーク:市の事業とESDとのつながりを知る

□まとめ

ESDとの連携が考えられる環境、次世代育成、国際交流、男女共同参画、教育分野を中心とした職員が参加した。グループワークを通じ自身の業務だけでなく他部門の業務を知りながら、ESDを結びつけて考えることで、ESDという概念の幅広さや施策とのつながりの深さを学ぶ研修となった。

また、難しく考えがちなESDを、それぞれの事業を題材に意見交換をすることで、身近なものであるということを知るきっかけとなった。



(2) 交流館長・主任主事向けESD研修(参加者54名)

□日時 平成25年9月11日(水) 13:30~16:30

□講師 岡山市京山地区ESD推進協議会会長、ESD-J副代表理事 池田満之氏
岡山市立中央公民館主任(ESD世界大会推進局兼務) 重森しおり氏

□ねらい ・ESDに対する理解を深める。

・次年度に展開するESDを生かした交流館事業へのイメージ形成をする。

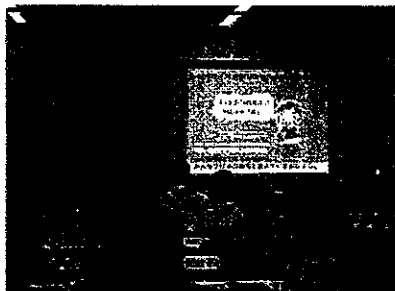
□内容 講義:世界・日本のESDの動き、公民館を拠点としたESD活動

ワークショップ:「自館で取り組んでいる事業にESDの視点を入れるのに必要な要素は?」~アイデア出し・全体共有~

□まとめ

公民館事業にESDを取り入れて実践している岡山市の事例を知ること、漠然としていたESDのイメージを交流館事業に近づけて考えることができた。

特にワークショップでは、現在行っている交流館事業がすでにESDであるということに気づくとともに、どのような働きかけや工夫をすれば、参加者にESDを伝え、主体性を引き出せるかという、交流館事業のあり方そのものにも繋がる議論ができた。



(3) 交流館主任主事向けESD研修(参加者28名)

□日時 平成25年12月4日(水) 13:30~16:30

□講師 NPO法人NIED・国際理解教育センター 代表理事 伊沢令子氏

□ねらい

- ・ 私たちの社会を振り返り、今何が未来を持続不可能にしているのか、課題を共有することを通して、ESDの意義や必要性を再確認する。
- ・ ESD的視点(ESDが大切にしている価値観、力、学び方)を持った交流館講座とは、具体的にどのようなもの(情報、体験、気づきなど)をどうやって提供する講座なのか、テーマごとに内容や方法のポイントとなることを考える。
- ・ コミュニティの課題解決と持続可能な未来の実現を後押しする交流館講座を提供するために、大切なこと、必要な視点などを交流館講座におけるESDの指標としてまとめ、現場に持ち帰る。

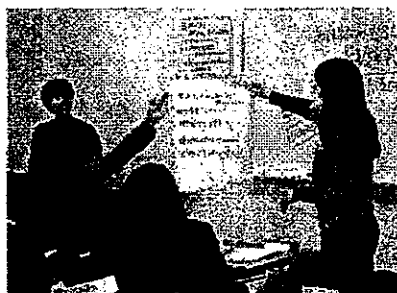
□内容 ・ESDの出発点 ~今なぜESDなのか!?!~

・ESDの視点でふりかえる交流館事業

・私たちによる私たちのためのESD的交流館講座のポイント

□まとめ

市内27館で実施している代表的な事業を研修素材とし、その事業をESD的視点にブラッシュアップするという実践に近い研修であった。交流館主事を指導する立場である主任主事が、自分たちの言葉でESD的交流館講座のポイントの指標作り(7か条)を行ったことで、主事が企画した事業をESD的視点で指導する際のコツを習得できた研修となった。



私たちの私たちによる私たちのための
ESD的交流館講座のポイントの指標(7か条)

- ① 主体的な気づきができること
- ② 身近なところから考えられること
- ③ 継続すること
- ④ 自分以外に目を向けることができること
- ⑤ 未来を考えられること
- ⑥ 地域のいろいろな立場、世代で関われること
- ⑦ ワクワク楽しめること

※研修で主任主事が考えた指標を一部抜粋

(4) 市民向けESD 共働まちづくりワークショップ

□日 時 スタッフ研修：平成25年12月18日（水）13：30～16：30
本 番：平成26年1月26日（日）13：00～16：30

□場 所 豊田市生涯学習センター梅坪台交流館

□ファシリテーター

会議ファシリテーター普及協会 代表：釘山健一氏、副代表：小野寺郷子氏

□参加者 28名（市民13名、行政職員9名、交流館職員6名）、見学者23名

□ねらい

- ・ 将来に渡って住みよいまちづくりやその担い手づくりに有効な考え方である ESD を活用したまちづくりのモデルをつくる。
- ・ 平成28年度に交流館合築の新中学校が開校する梅坪台地区では、今後、新たなまちづくりに向けた活動が必要である。この地域において、ESD の概念を生かした共働のまちづくりのワークショップを体験することで、新しいまちづくりに向けた活動へのきっかけとする。

□ワークショップのテーマ

梅坪台地区ともっと楽しく住みやすくするためのアイデアを考えよう

□まとめ

ESD の実践及びモデルづくりとして、「ESD=持続可能な社会のための担い手づくり」の概念を生かした市民・行政・交流館の共働まちづくりワークショップを行った。

市民・行政・交流館が同じテーブルにつき、まちづくりについて語り合うことで、自分以外の誰かを思いやることや将来のことをイメージするという ESD の重要な要素を実践できるワークショップとなった。また、交流館を核としたまちづくり事業として、他の交流館にも発展可能なモデルを形成することができた。



6 全体総括

当該事業を通し、ESD が交流館事業をさらにステップアップさせるためのツールであるとともに、将来に渡って住みやすいまちをつくるためのヒントとして使うことができるものであることを学んだ。

当該事業をきっかけに、26年度の交流館運営基本方針に ESD を盛りこむこととなった。今後も、地域活動の拠点施設である交流館が核となり、市民が主体性を持って持続可能な社会を形成するために、ESD を生かした取組を進めていきたい。

アブラ 油 ～ 固ブラ～

～ 「捨てる」から「活かす」へ～

はじめに

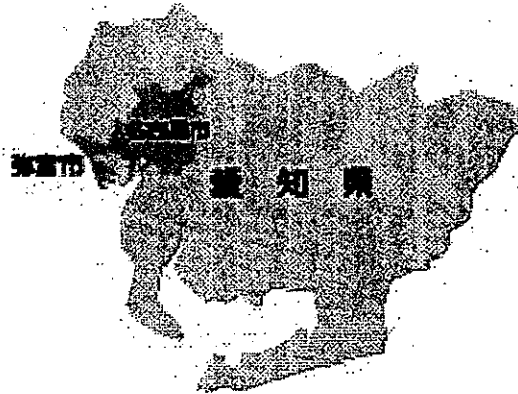
はじめに、弥富市の紹介を少しさせていただきます。

弥富市は、名古屋市の西側20 km圏内に位置し、南部は名古屋港西部臨海工業地帯をへて名古屋港の港湾海域に臨んでいます。また、西側は三重県に隣接しています。

世帯数は約16,400世帯、人口約44,500人、市の面積は48 km²であり、東西が約9 km、南北が約15 kmと南北に長い地域です。そして、海拔0メートル地帯が大きく広がる、極めて平坦な地形です。

名古屋市と関西方面を結ぶJR関西本線、近鉄名古屋線や国道1号、名四国道が通るとともに、近年では東名阪自動車道、伊勢湾岸自動車道というように東西を結ぶ動脈が築かれてきました。

また、本市は干拓で作られた地域が多く、人々が水との闘いを繰り返してきました。特に、昭和34年の伊勢湾台風の折には、海岸や河川の堤防が決壊して、甚大な被害を受けました。



さて、弥富市総合社会教育センターは、生涯学習の拠点として機能しており、学校・家庭・地域社会の連携をはじめ、各種団体の交流を育み、さまざまな活動が展開されています。

今回の「公民館を核とした社会教育活性化事業」には、弥富市女性の会を中心として、NPO法人愛知県西部防災ボランティアコーディネーターネットワークの会、防災まちづ

くりをすすめる会、弥富市消防団等の防災関係団体、及びボーイスカウト、健康祭り実行委員会などの地域団体の連携無しでは、なし得なかった事業となりました。

弥富市は、金魚の生産日本一を誇る木曾川の下流に開拓された水郷地帯です。木曾川水系の良質な水が得られるほか、豊饒な濃尾平野の土が粘土質で、金魚の発色を良くするなどの金魚養殖



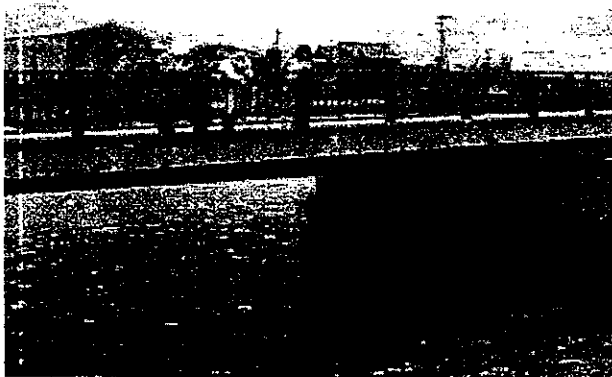
には最適な土地です。向井千秋さんが宇宙で行なった金魚の宇宙酔い実験も弥富の金魚が使われました。弥富金魚というブランドもこうした地の利を活かしてきた結果です。

しかし、近年では鉄道駅周辺を中心に名古屋市ベッドタウン化が進み、住宅開発が進んでいます。

弥富市では、金魚の棲みやすい水資源の確保を目指す環境意識の高まりの中で、市民に対してESDの普及・啓発を図り、ESDの意識をさらに社会教育の中で幅広く伝えることを目指しています。そこで、家庭用食用油の再利用や資源の節約にスポットを当て、弥富市女性の会が継続して行っている活動を中心に、様々な分野で活躍する団体が集い、交流し、持続可能な社会づくりについて学び合う機会を提供することによって、環境・資源・エネルギーの側面からESDの普及・啓発を図ることを目指したいと考えました。そして、多くの市民が集う「弥富市健康フェスタ」等のイベントにおいて各団体の連携・協働体制の強化を図り、社会教育のさらなる活性化を目指しました。

きっかけ

弥富市女性の会は、3年前に環境美化活動の一端として、ひもでバケツを吊るし、橋の上から



から水を採取し、地域の水質検査をしました。そのパケットテストは、生活排水、工場排水、農業肥料などから窒素やりんが流れ込んでいるのではないかとと思われる残念な結果でした。

窒素もりんも自然の中を循環していますが、私たちの生活から、これ以上過剰な量が入ると、自然のバランスが崩れてしまうのではないかと心配になりました。弥富市では、下水道が、すべて完備されてい

るわけではありません。昔は、川の持っている自然の力で水を浄化できたのですが、私たちの暮らしが豊かで便利になればなるほど、下水道がなくてはならない物になっているのです。

もしも、生活排水が、原因ならば、河川の水をきれいにするためには、私たちは、どうしたら良いのか、何が出来るのか、私たちの心がけで改善できるのかを話し合いました。その中でも、廃油の始末について、考えました。油で汚れた水を魚が住めるようにするには、20万倍の水が必要だそうです。廃油を固めて可燃ごみとして、捨ててはどうか？新聞紙で吸い上げて、アクリルたわしで洗っては？などの意見が出ましたが、固めたり、新聞紙で吸い上げたりして捨てれば焼却処分しなければなりません。焼却は、地球温暖化や大気汚染にもつながるのではないかと…それなら、廃油石けんにして使えば、多少は環境破壊防止に役立つのではないかと、意見がまとまりました。

先ずは、啓発

今年の夏も、「でんきを消す夜。地球を想う夜がちょっとステキになりますように。」を合言葉に、環境省の「ライトダウンジャパン 2013」の呼びかけ団体として登録をしました。「夏至と七夕の夜に、1時間以上電気を消しましょう」と、去年の女性の会会員のみならず、広く市民にも回覧等で呼びかけました。熱帯夜の中、「冷房は切れないけど、電気の明かりだけなら・・・」との声も聞かれ、E C Oキャンドルに対する関心も、少しずつではあるけれど、浸透し始めたことを実感しています。

体験

夏休みには、昨年度より弥富市教育委員会主催の「サバイバル体験教室」が、小学生を対象に開催されています。これは、東日本大震災が、子ども達の下校時刻に発生したことから、いざという時に、自分たちに何ができるか、どうしたらよいかを学ぶ場です。このサバイバル体験では、日本ボーイスカウト愛知連盟 尾張南地区 弥富1団による「チャレンジプログラム～避難ルートを考えよう～」や、防災まちづくりをすすめる会による「チャレンジプログラム～寝るところを確保しよう～」、女性の会の「チャレンジプログラム～明かりを確保しよう～」など様々なチャレンジプログラムが用意されていて、小学生がみんなで考え行動し体験します。



「チャレンジプログラム～明かりを確保しよう～」では、期限切れ未使用のてんぷら油でE C Oキャンドルを作りました。昨年に続いて参加した子ども

たちは、「今年は、もっとカラフルなキャンドルを作るよ」「家族の分も作りたい」と、積極的にキャンドル作りをしていました。その上、初めて参加する友達にも、手際よく教えたり、「この油は、天ぷらには使えないけど、キャンドルに使えば、捨てなくて済むんだよ」と、E C Oに対する意識も大人顔負けです。

普段の生活の中でE C Oキャンドルを作り置きし、災害時の備えにして欲しいと思います。

「夜、このキャンドルをいっぱい灯すと明るいよね。」

子どもたちの声に元気を貰い、更なる活動計画を立てました。

さらに、実践

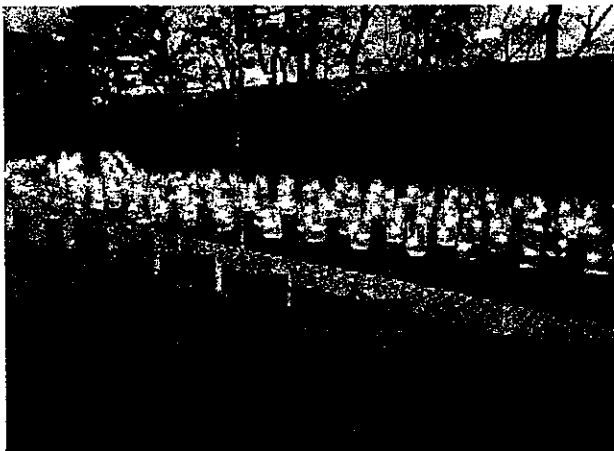
毎年参加している健康フェスタのE C Oコーナーの他に、今年度は、前夜祭として「リバーサイドイルミネーション&ミュージックベルの調べ」を開催することにしました。

もちろん、本祭では、毎年開催している女性の会ECOコーナーでの廃油の回収、廃油石鹸の無料配布、ECOレーシングカートの試乗会は、外せません。

並行して準備をしました。リバーサイドイルミネーション用に500個以上のECOキャンドルを作り、風よけ用を兼ねた乱反射でキラキラ輝くキャンドルカバーのペットボトルの準備にも余念はありません。

また、牛乳パックを使って、和風で粋なキャンドル用の灯籠も新たに作りました。

〈ECOキャンドルのともしびと美しいミュージックベルの調べに、秋の夜長をのんびりと過ごしてみませんか？〉



市内各所にポスターを掲示し、市内小学校の全児童にチラシを配布。

よし！準備万端！！

ところが、台風27号の接近に伴い、せっかく準備してきた前夜祭も本祭も中止になってしまいました。直前の台風により、伊豆大島が甚大な被害を受けた事を踏まえての苦渋の決断でした。

再考

せっかく作ったECOキャンドルで、廃油の再利用や資源の節約を呼びかける機会を失ってしまいましたが、再度、実施に向けて検討、計画を練り直し、「Candle Night in YATOMI 2013」を開催することにしました。

当日は、JA愛知厚生連 海南病院主催による映画祭あとの開催となった為、来場者にチラシを配って啓発しました。

「廃油で作ったECOキャンドルを一斉に灯します。一緒に静かな夜を過ごしませんか？」点灯開始時には、多くの方々がECOキャンドルの灯火を待ちわびている姿が原動力となり、500個余りの点灯に、中腰姿勢でも笑顔で耐えることができました。

この日は、遅くまでキャンドルの灯火を見に来る人が続きました。ECOキャンドルの癒しの力にも感慨ひとしおの夜となりました。

再チャレンジ

さらに、健康フェスタは中止になりましたが、ECO活動を子ども達にも、知ってもらおうと「廃油で走るECOレー



シングカート」を招致することにも再度チャレンジする事にしました。

そして、環境省認定「環境カウンセラー」「環境パフォーマー」である「らんま先生」を講師にお招きして、楽しく子ども達にもECOについて学んでもらう事にしました。

第1部「らんま先生のエコ実験パフォーマンスショー」、第2部「天ぷら油から作った燃料で走るカートに乗って、資源のリサイクルを実感しよう！」と2部構成で開催しました。

第1部の「らんま先生のパフォーマンスショー」では、環境や科学の知識を手品やジャグリングがユーモアあふれるトークで絶妙にブレンドされていて、来場者に、環境、科学の楽しさを伝えていただきました。

第2部の「ECOレーシングカートの試乗会」では、室内のためカートを走らせる事はでき



きませんでしたが、実際にエンジンをかけて、排気ガスのにおいがかぐ事ができました。

子供たちは、口々に「天ぷらのにおいがする」「焼肉のにおいだ」と感じ方は、違っていました。使用済みの天ぷら油で車が走るんだ！」と実感してもらえたと思います。

当日は、計画から実施までの期間が短かった事もあり、来場者が少なく残念で

したが、CATVの放送後、「行きたかった」「面白そうだった」の声が聞かれ、準備期間の大切さを改めて感じました。

そして、継続

全国的な猛暑に襲われた2013年の夏。一方では、「過去に経験したことのない豪雨」が深刻な災害を招いたほか、干ばつにも見舞われた地域もありました。その結果、弥富市でも活動計画を中止や変更をせざるを得ませんでした。だからと言って、何もしない訳にはいかない！私たちの子どもや孫や、さらに、その子どもたちの苦勞が、少しでも軽減されるのであれば、今を生きる私たちが、小さな事でも始めよう！そして、継続しよう！これが、弥富市女性の会の願いです。

東日本大震災で大切な家財道具や思い出の品が、一瞬でガレキやゴミと化し、そのガレキの廃棄処分に今もなお、苦慮している方々を想うと、普段の生活の中で、むやみにゴミを作ってはいけない、資源を大切にしなければいけないと思います。

そして、今後も混ぜれば「エゴ」分ければ「エコ」を合言葉に、将来を生きる子どもたちのためにEGOEEO活動を続けていきたいと思っています。